

# 令和5年度 第1回 信州幼児教育支援センター運営会議

学びの改革支援課

## 1 日 時

令和5年4月19日（水） 10:00～12:00

## 2 開催方法

オンライン開催

## 3 参加者

【長野県立大学】こども学科長 太田 光洋（信州幼児教育支援センター長）

【長野県保育連盟】会長 海野 暁光

【長野県私立幼稚園・認定こども園協会】理事長 大森 けい子

【長野県野外保育連盟】理事長 内田 幸一

【長野県県民文化部】こども若者局長 高橋 寿明

こども・家庭課 課長 中坪 幸恵

保育係長 大口 泰弘

自然保育普及推進員 藤田 良子

次世代サポート課青少年指導主事 保坂 実

県民の学び支援課 主事 神津 衣来

【長野県教育委員会】教育次長 曾根原 好彦

教育政策課 主事 赤羽 優介

特別支援教育課 指導主事 伊藤 健生

学びの改革支援課 課長 臼井 学

義務教育指導係長 細江 洋司

主任指導主事 田中 誠

指導主事 鈴木 崇晃

幼児教育コーディネーター 橋爪 典子

## 4 内 容

### (1) 挨拶：曾根原教育次長

- ・当センター設置の目的は、園種を越え、「オールながの」の運営体制で、幼児教育の現場を支え、幼児教育の質の向上を図ることにある。第4次長野県教育振興基本計画では、【「探究県」長野の学び】を掲げ、個人と社会のウェルビーイングを目指している。その根幹が幼児教育、とりわけ遊びにあると考えている。幼児期における遊びを通じた総合的な指導の充実が、「学びの改革」の基盤となることから、当センターの役割は極めて重要であると認識。
- ・今年度は、フィールド研修の内容的な充実、幼児教育アドバイザーの増員を進めると共に、実地研修、オンライン研修、オンデマンド研修などを組み合わせ、内容面のみでなく、参加のしやすさも配慮した研修を実施したいと考えている。
- ・また、これまでに作成した、「園・小接続カリキュラムの【理論編】と【実践編】」や、保育者育成指標をもとに、幼保小接続カリキュラムの編成や保育者研修体系の整備など、研修内容の充実を一層進めてまいる所存。本日は、皆様から御意見をいただくことで、本年度のセンターの事業の運営の方向を明らかにしていきたいと思料。忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願ひしたい。

## (2) 協議

### ① 令和5年度信州幼児教育支援センター事業内容について

#### 【田中主任指導主事】

- ・センターの設置について。「現場力をつなぎ、発信する」ということをコンセプトに、笑顔かがやき、夢中になって遊ぶ子どもを目指す姿として進めていきたい。オール長野で今年度も取り組んでいけたらよいと思う。運営会議において、事業方針を検討いただき、専門部会において企画・立案を進めていく。
- ・フィールド研修については、内容の充実を目指していく。今年度は「往還型・探究型」の研修を実施。これまでのように実践発表を聞くだけでなく、受講園でも実践を進め、一緒になってよりよい保育のあり方について考えていく。
- ・研修体系については、これまで「保育者育成指標 1.3」を作成してきた。今年度は、1.4へと更新していく。
- ・園小接続カリキュラムの編成・充実については、小学校への適応に留まるという課題があるため、小学校の先生方にも広く接続の大切さについて考えてもらえるよう進めていく。

#### 【太田センター長】

- ・今年度の運営事業について、3本柱を説明いただいた。今の説明についてご意見等あれば伺いたい。基本的には、これまで進めてきたものを充実させていく。研修については研修体系の構築を目指すということで、ひとまずこの方向でよろしいか。

#### 【海野会長】

- ・こども基本法が施行される。子供を中心としたという見方をここでもしていけないといけない。子供の意見を聞いていったり、子供の姿を中心として見ていくということを基本としていけないといけないと考える。

#### 【太田センター長】

- ・子供の意見表明権等についても考えていけないといけない。どのように子供の意見を汲み取っていくのか、具体的などころで、また後程お話をいただきたい。

### ② 令和5年度の運営方針及び事業内容について

#### 【田中主任指導主事】

- ・運営方針については、アフターコロナの時代を見据えながら進めていく。専門部会の構成員については名簿に示した通り。
- ・フィールド研修については、今年度実践園・実践校が決まってきたので、この5校園を中心に進めていく。また、今年度はOB実践報告会を考えている。見通しや実践を語り合えるような会を設けていきたい。この後、受講園の募集を進めていく。
- ・保育者研修体系の構築については、今年度「保育者育成指標 1.4」への更新を目指す。育成指標の13～18の項目について、3つのポイントと研修動画の内容の検討を進めていく。また関係団体や関係課で進めている研修を一覧にまとめていきたい。ミドルリーダー養成研修についても試行として進めていきたい。
- ・園小接続カリキュラムの編成・充実については、園小接続カリキュラムの開発を県内へ普及していくことを目的として進めていく。研修会の実施や、市町村の担当者を対象とした園小接続推進会議の実施、実践事例の作成等を考えている。
- ・幼児教育アドバイザーについては、今年度4名の増員を考えている。この点については、橋爪コーディネーターから説明させていただく。

#### 【橋爪コーディネーター】

- ・4名のアドバイザーに内諾をいただいている。柳澤先生、竹内先生、川上先生、内保先生の4名を各団体から推薦いただいた。

#### 【田中主任指導主事】

- ・幼児教育アドバイザーを増員し、訪問支援体制を充実していく。
- ・県や市町村のアドバイザーに対して、情報交換したり協議したりする会議を年2回予定。
- ・ドキュメンテーションの一層の普及を図るためにも、ドキュメンテーション研修を今年度も実施。基本編と応用編の2回実施予定。
- ・情報発信については、ホームページの一層の充実を目指していく。
- ・長野県総合教育センターとの連携については、県内すべての保育者を対象とした研修を今年度も実施していく。
- ・フィールド研修OB会について。これまでの実践園として発表いただいた園や今年度の実践園に参加いただき、実践の手がかりを情報交換していく。やがては、各地域でつながり、地域の研修コミュニティを形成していくことをねらっていく。
- ・ミドルリーダー育成研修について。まずは県内の市町村に働きかけ、センターが中心となって市町村推薦の人材への研修を進める。そのようにして育っていった先生方がやがては市町村の中核になっていくことをイメージしている。さらには、幼児教育支援センターのアドバイザーとしても登録し、アドバイザーの体制も充実させていきたい。各園による自立した研修を運営する母体づくりを進めていく。近隣園での「小さな研修」を気軽に行えるように進めていく。

#### 【大森理事長】

- ・支援センターが発足する前から関わらせてもらった。当時、目指す子ども像を設定する中で、小学校の先生の中には、遊びは学びであるということが理解できない方もいるということで、「笑顔輝き、夢中になって遊ぶ子ども」というテーマにしてもらったことを思い出す。4月からこども家庭庁が発足したが、子供が真ん中ということよりは、少子化のための財源をどうするかという方向になってしまっているような気がしている。今、小中学校を見ていると、いじめや不登校、自殺等々、直面している問題が多数ある。やはり乳幼児教育が、まず愛着、そしてアクティブラーニングの方向に向かっているかという解決につながっていない。昔からの保育の壁が越えられないという話も聞く一方で、園の先生の中には、法令で決まっているのだから、保育が変わらなければいけないと頑張っている先生もいる。なぜ、いじめが起きるのかを考えた時、子どもたちのストレスがポイントになっていると精神科医の先生も言っている。一斉保育だけの中で、子供が思う存分遊べない姿も見ている。子供の成長は素晴らしい。国民の皆さんが、そして現場の先生方がその姿を理解してしっかりやっつけていかなければいけない。現場をもっとしっかりしたものにしていかないといけない。

#### 【太田センター長】

- ・政府の話は少子化対策に偏ってしまっているというのはあるかもしれない。これから園の在り方についても、園それぞれで考えられているが、園種の壁はこれから薄れていくだろう。入りたい園を選べるようになっていくと、大森先生が話された方向と逆で、園がそれぞれの方向に進んでいってしまうという懸念もある。若手の先生たちがこのままでいいのかと疑問を感じているという話を聞くこともある。そういうところを上手く後押しできるような形を取れたらよい。こども家庭庁が発足したという点では、タイミングとしてはいいのかもしれない。発信をしていきたい。

#### 【内田理事長】

- ・OB会への質問。実際にフィールド研修を行った各園が交流する機会をつくるのはよい機会だが、外部視聴などもできるようになるのか。他の人たちが聞くだけでも、参考になるだろう。

**【田中主任指導主事】**

- ・難しいことではないので、広く発信していけるとよい。

**【太田センター長】**

- ・実践を始める前に、会って話し合いたかったという話もあった。みんなの前では聞きにくいというものもある。オフィシャルではない部分もあるかと思うので、そういう話ができる機会もあるとよいのではないか。

**【海野会長】**

- ・フィールド研修の参加者を見ていると、やり方だけをまねしてしまう傾向がある。もっと子供を見るということをやっていないといけない。とにかく公式を覚えて問題を解くということを進めてきた学校教育の弊害。なぜ、それをやるのかを考える習慣も含めて発表内容を考えていきたい。私が思うのは、0～1歳から、例えば鼻水を垂らしていたら、鼻水を拭いていいかどうかなどを1つ1つ聞いていく。聞くことで子供は考えるようになる。1つ1つの積み重ね。子供自身が現状を把握していくようになる。自分が置かれていく現状を把握していくことの積み重ねによって、周りをよく見て判断していくことができるようになっていく。
- ・これまでの流れだと優秀な子供ほど、先生はどう考えるかを付度していくように育っていく。子供を中心に進めていくということを考えていきたい。ドキュメンテーションも真似ばかりで、意味のない写真の羅列等も見られる。
- ・保育者育成指標についても。保育者が育つと子供が育つということだけでなく、子供が育つと保育者が育つことにもつながる。子供の育ちが喜びにつながり、保育者が育つということにもつながる。フィールド研修はそうした側面も持たせていけるとよい。

**【大田センター長】**

- ・やり方を真似るとか形を真似るということは実際多いと思う。フィールド研修での実践園の考え方がうまく伝わるといい。一方で考え方を先に出すと伝わりにくいので、実践園の考えが見えるような工夫を考えていく必要があるかもしれない。
- ・子供の意見を聞く、子どもの考えを見ることが、うまく伝えられる方法があるといい。海外に行くと、一人一人ポートフォリオを持っていて、それを見せてもらうときには見せてもらえるか子供に聞いてみる。子供の意見を尊重するということが日常生活の中で徹底していくことということが大切ではないか。これまでの習慣でいくと、そういう点でハードルが高いかもしれない。フィールド研修と研修体系についての関係性は、海野先生が今言われた通りかもしれない。

**【内田理事長】**

- ・ミドルリーダーの育成。市町村から推薦された人たちが、子供中心ということをしっかり理解してもらえるようにしていきたい。子供にどう声がけしていくのかということを考えていけるようにしたい。野外保育では一日を振り返る時間を大切にしている。そういう積み重ねで自分の考えを話せる子どもが育っていく。意見表明権といっても、まずはゆるやかな育ちや段階を意識していくことが必要ではないか。自分の考えをしっかりと伝えていくことは、これからの社会でも求められていくこと。

**【大森理事長】**

- ・園小接続のカリキュラムについて。2017年に3法令が同時改訂され、要領も指針も同じ方向を向いているが、その中で10の姿が打ち出されている。小学校の先生にも紹介したところ、10の姿は評価につながるのかという話が出てきた。信濃教育会の先生方と話をしたこともあったが、その先生方も全く知らなかったということがあった。10の姿を保育園でも使っているが、それを使っていくと、小学校の先生方に伝えやすい。ぜひ小学校でも10の姿を活用してほしい。

- ・先日、新規採用者研修で、バケツに小石を落としている姿をみんなで見合って考え合う演習を行ってみた。10の姿を通して話し合ってみたが、そうやって具体から話し合ってみることが大切なのではないか。

**【海野会長】**

- ・3本柱（3つの資質・能力）で話をすると、幼保小中高までつながって、他校種の先生方と話が進みやすい。10の姿が大切だと言ってはいても、実際の10の項目それぞれの姿を諳んじていない。3つは覚えられても10は多すぎるのではないかとも思う。

**【大森理事長】**

- ・確かに、10の姿はそれではいえないが、10の姿も資質能力の3つの柱から下りてきたものが10の姿かと思うので、伝える側としては、そういう姿も大切にしていきたいと申した。武藤先生や汐見先生の話の中にも、よく出てくるものなので、お伝えさせていただいた。

**【鈴木指導主事】**

- ・幼児教育支援センターでは10の姿のピクトグラムを作成し配布している。ドキュメンテーション等にも活用してもらえるといいと考えている。
- ・先ほど、ミドルリーダー育成の研修会について、市町村からそれぞれ1名ずつ挙げてもらいたいと話をした。市町村の中心となる人物を育てていきたいという思いがあるが、これは市町村だけに限ってしまうと公立園の方だけに限られてしまうかとも考える。例えば、私立園の方からも、何名が挙げてもらって一緒にミドルリーダー研修を進めていくことは可能か。

**【大森理事長】**

- ・個人的に勉強会は開いている。先生同士、学び合っている。これからそれが続けられるといいなと思っている。ただ、今は認定こども園化してきて、なかなか研修の時間が取れないのが現状。みなさん忙しい中で厳しい現状がある。

**【太田センター長】**

- ・推薦という形ではなく、私立園の方では、自分で手を挙げてもらうというのはどうか。

**【内田理事長】**

- ・自分で参加したいという人たちは中にはいるのかもしれない。それぞれの園で時間を調整するのは難しかったりするだろうが、野外保育連盟の園では比較的時間がとりやすいところがあるかもしれない。

**【海野会長】**

- ・やりたいところはやりたいだろうし、二極化が進んでいるような気がする。研修に積極的に参加する園と、忙しきで研修を避ける園と二極化している。スーパーアドバイザーとして、園へ一か月くらいお手伝いに行き、現場に入って一緒に園を手伝うことで自然と園が変わっていくようなことができるよ。

**【大森理事長】**

- ・公立保育園が、派手な幼稚園の行事を真似しているという状況がある。そこを危惧している。何かいい提案は無いだろうか。

**【海野会長】**

- ・松本市では、保育環境評価スケールを作成しているところ。園種関係なく、互いに見合い、地域全体の幼児教育の質向上を目指して進めている。公立園は強制的に参加、私立は任意。地域全体で質向上を進めていかないと一園だけでは人が集まらない。小さな市町村だけでは、そこまでできないかもしれない。
- ・県レベルでのアドバイザーの存在も必要になってくるだろうし、松本市の中だけで進めていても、井の中の蛙になりやすいので、県からの新しい情報も取り入れながらやっていきたいとは思っている。

【大森理事長】

- ・やはり市町村によって、それぞれ格差がある。

【太田センター長】

- ・公立園だけでなく、私立園も参加してもらい、色々な情報が行き交うようになるといい。これからの時代の保育を創っていく人たちが園種を越えながら進めていけるとよい。

【内田理事長】

- ・ミドルリーダー育成の件について。次の世代を育成していくということは本当に大切なこと。色々な壁はあるかと思うが、園種を越えて、地域ごとに情報交換をざっくばらんにやれるような集まり方をぜひ進めていきたい。将来像を描いていこうとするときに、一園だけが頑張っても仕方ない。情報交換をしながら、互いに刺激し合っていくような場が必要。

【太田センター長】

- ・交流会を進めていくときに、支援センターがうまくつないでいけるとよい。つなぐだけでなく、地域で何かやってみようというところに、一つステップがあると思う。その時に、センターの職員がサポートできるような形にしていかないと継続していくのは難しいだろう。互いに刺激し合えるような、手応えがあるようなものになっていけるとよい。

【海野会長】

- ・ドキュメンテーション製作の時、こんなものを作ってみた（ドキュメンテーション提示）。写真をメインにして、先ほどの10の姿のピクトグラムを活用している。幼児期の終わりまでの育てほしい10の姿を、幼児の主体的・協働的な遊びに見る10の姿と勝手に読み替えて提示してみた。

【太田センター長】

- ・フィールド研修については、テーマを絞って、最終的にはテーマごとの事例集みたいな形で整理していくという話もあった。

【鈴木指導主事】

- ・フィールド研修については、今年度は、テーマを決め、往還型・探究型の研修で進めたいと考えている。テーマ設定が非常に重要になってくる。そのテーマを実践園と受講園が一緒になって考えていくので、もちろん発表する実践園が主体にはなるが、かといってテーマは何でもよいというよりは、育成指標の18の項目のどこかに絡んでくるということも意識しながら、テーマを決められるとよい。育成指標の項目の中には、比較的発表に絡みやすい項目もあるので、そういった項目をテーマに関連させながら発表してもらえると、育成指標とフィールド研修が繋がっていくのではないかと考えている。

【太田センター長】

- ・フィールド研修はオンラインで開催ということだが、実地というか対面でやったらいいのではないかという声もあると思う。その点について、事務局の意図はどうか。

【田中主任指導主事】

- ・昨年度のアンケートでは、オンライン型を求める声の方が多かった。参加のしやすさというところがあるのではないかと。ただ、現場で間近に子供達の息遣いを感じたり、先生方の関わりを見ることが大切だと思うので、そういった機会も保障できるとよいと考えている。

③ 質の向上に係る幼児教育関係課の取組について

【学びの改革支援課】

- ・公立幼稚園等の新規採用教員研修における、私立幼稚園等からの参加について
- ・長野県幼児教育協議会について

【こども・家庭課】

- ・信州型自然保育について
- ・現場の先生に向けた研修を計画。研修の受講機会が増えるように発信。

**【次世代サポート課】**

- ・発達障がい者支援センターを「発達障がい・交流センター」へと改編。

**【県民の学び支援課】**

- ・私立学校への補助金について。
- ・園庭の芝生化の導入にかかる費用の補助について。
- ・私立幼稚園・認定こども園協会の研修の一覧表を共有しているところ。

**【特別支援教育課】**

- ・特別支援教育推進員の配置。
- ・一人一人のニーズに応じた支援を考えていく。
- ・各教育委員会への相談支援や、適切な学びの場のガイドラインをもとに、校内教育支援委員会への助言・支援を行う。
- ・発達障がい支援力アップ出前研修の紹介。研修支援を行っていく。
- ・各市町村向けに、就学の支援を進めるためのポイントを示したものを配布。

**【海野会長】**

- ・自然保育について。うちの園は申請していないが、山整備をしようと考えている。他の事業と組み合わせることでも自然保育について考えていただけるとありがたい。
- ・就学支援について。今ある学校のシステムに子供を振り分けていく作業に思えてしまう。それに向けて保育士が作っている就学支援委員会の書類が年々増えている。あまりいい仕事には思っていない。学校のシステムを変えていく方向の支援はどうなっているのか。個別最適な学びと協働的な学びが実現すれば、子供を振り分けることはしなくてもよいのではないか。

**【太田センター長】**

- ・インクルーシブが大きな課題かと思う。

**<事務連絡>**

**【田中主任指導主事】**

- ・次回の運営会議。10月26日（木）オンラインにて計画している。